



Title	マッキントッシュによる端末局設置
Author(s)	中村, 敏枝
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1990, 76, p. 61-68
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65869
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

マッキントッシュによる端末局設置

中村敏枝

大阪大学教養部心理学第2研究室

1. はじめに

愛用している Macintosh Plus (以下 Mac と記す)を用いて、大阪大学大型計算機センター(以下 センターと記す)を利用したいとは前々から思っていた。センターは開設当時から利用していたが、パソコンの性能向上につれて、近年は全く使わない状態が続いている。しかし、パソコンでは無理な、或いは、時間のかかり過ぎる大きな計算のために、更には、文献検索など種々のデータベースの利用や、国内外の研究者との通信のために、再び、センターの大型計算機を利用したい、しかも、自分の研究室に居ながらにして、使い慣れたパソコンで、という願望は次第に大きくなっていた。何年か前に、他の機種のパソコンを用いて音響カプラでの接続は試みたことがあった。しかし、筆者の研究上の便宜を考えて、どうしても Mac を端末局として使いたかった。そこで、機会あるごとに、資料を得るように心掛け、人にも尋ねていたが、Macに関しては、文学部出身の筆者にも容易にとびつけるような具体的な情報は得られないまま、今日に至っていた。Mac で端末局を開くことは難しいことのように思えて、何だか億劫になりかけていた。こんな状態が続いていたが、幸いにも、専門家の支援がえられることとなり^{注1)}、最近、めでたく Mac による端末局開設を果たすことが出来た。以下は、その顛末記である。

2. 準備するもの

まず、接続のための電話回線は、とりあえず、既設の交換回線を使用すると方針を決めた。専用回線を使用する場合に比べ、他のパソコン通信 (NIFTY Serve など) や情報処理教育センターも利用できるという利点がある。モデムは、「Hayes コンバチ」であれば使用可能であるが、更に、「MNP 搭載」のモデムであると、通信エラーの処理を自動的に行なってくれるので、より望ましい。したがって、多機種市販されているモデムの中から、この 2 点を確認して、適当なものを購入すればよいということであった。筆者が購入したのは、OMRON MD2400F である。後述の通信ソフト「EG Talk」を利用してできるモデルとしてエルゴソフト(株)が推薦した機種(Table 1)の中から選んだ。Mac との接続用ケーブル(ミニ 8 pin DIN)も購入した。モデムを購入すると共に、センターに端局設置申請書を提出した(センター発行「端局設置申請に関する説明書」参照)。但し、大型計算

注1) 大阪大学大型計算機センター 下條真司講師に感謝致します。

Table 1

株式会社田村電機製作所	アクタム DM1200 ダイレクトモデム アクタム DM1220 ダイレクトモデム
オムロン株式会社	MD-1200A, MD-1200E, MD-2400A, MD-2400F-MNP
セイコーエプソン株式会社	エプソン SR-120AT, エプソン SR-120S, エプソン SR-240AT
インフォテック株式会社	HI-MODEM 1200S
アイワ株式会社	PV-A1200, PV-A1200Mk II, PV-A2400, PV-A2400MNP, PV-A2400MNP 4
日本電機テクノマーケティング株式会社	COMSTAR1212AT, COMSTAR2424AT/4, COMSTAR2424AT/5
株式会社理経 Trail Blazer	トリブルモデム VI2422PA

機の利用承認をまだ得ていなければ、センターに申請して、利用者番号をもらつておく必要がある。

通信ソフトは Ninja Term(PDSすなわち無料、入手方法についてはセンターの共同利用掛に問い合わせて下さい)、ASL Talk(同左)、EGTalk(有料、株式会社エルゴソフト製)が手許に用意された。こちらの準備は万端整つて、さあ、センターに接続しようという段になって、わが研究室の電話機が古いタイプで駄目だということに気付き、急ぎ、用度掛に書類を出してモジュラージャック/プラグの電話機に替えてもらうというさわぎもあった。

以上、準備したものの接続は Fig.1 に示すとおりである。

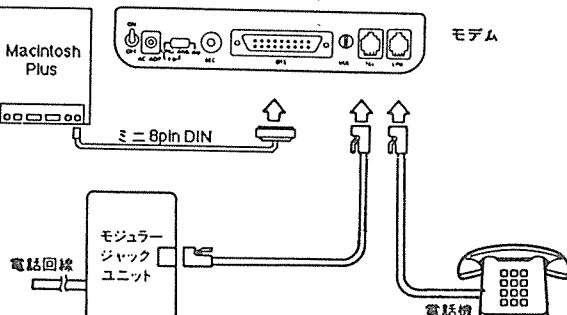


Fig. 1

3. センターとの接続

これで、センターとの通信に必要な道具だけは揃つたので、適当なソフトを用いて実行すればよい。なお、実行の際にセンターにかける電話番号は、交換回線の種類によって異なる (Table 2)。

例として、上記 3 種類のソフトの使用手順を以下に記す

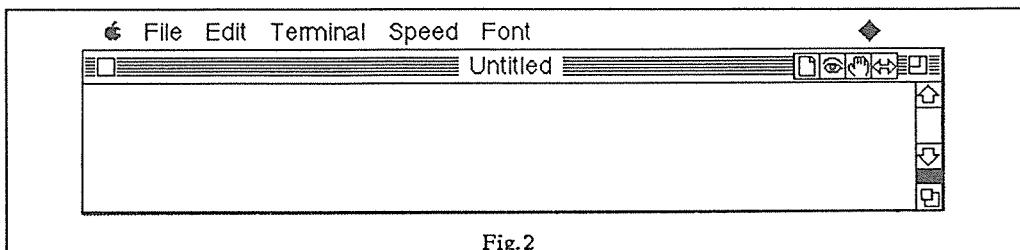
Table 2

交換回線の区別	回線速度	電話番号
阪大外線電話	1200 - 9600	06(876)3145
阪大吹田構内電話	1200, 2400	2921
阪大豊中構内電話	1200, 2400	2195

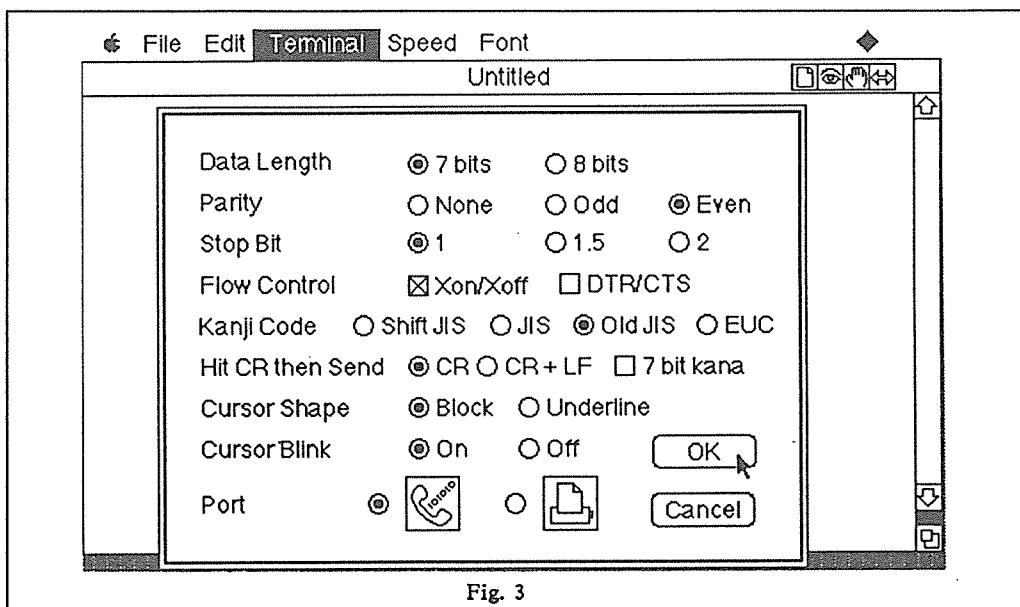
[A. Ninja Term を用いる場合]

Ninja Term は、Michael Ariza 氏によって作成され、無料で公開・提供されているソフトである。漢字が扱える。

1. Ninja Term を起動すると、Fig.2 の画面になる。



2. Terminalメニューの「Other Settings」を選択すると、Fig.3 の画面になるので、図のように、設定を行なう。



3. Speedメニューで、通信速度を1200 或いは 2400 に設定する。使用する電話番号により、速度の制約があるので注意を要する(Table 2 参照)。

4. センターに電話をかけるために、Fig.4 の a を入力する。但し、筆者の使用する電話はダイアルホンであるので、ATDP とするが、プッシュホンの場合は ATDT としなければならない。また、この例の2195 は豊中構内電話である。Table 2 を参照して、使用する電話番号を入力する。

5. Terminal メニューで、Local Echo を設定する。これをしないと、入力した文字が表示されない。

但し、センターの汎用機を使用する場合であって、ワークステーションを使う場合は、この設定を行わない。設定すると、入力文字がダブル表示になる。

6. 接続完了のメッセージ“CONNECT”が表示されれば、リターンキーを押す (Fig.4 の b)。

7. CLASS 番号を問い合わせるメニューが表示されるので、利用するシステムのクラス番号を入力する。Fig.4 の c は、センターの汎用機を通信速度1200で使用する場合の入力である。

8. “GO”メッセージが表示されれば、正常に接続されたので、リターンキーを押す (Fig.4 の d)。“GO”以外のメッセージが表示された場合は、もう一度クラス番号を入力する。

9. 以上で、センターの計算機と回線が

接続されたので、次に、TSS と接続するための入力を行なう。Fig.4 の e のよ

Table 3

\$\$\$CON,TSS,,KNJ	漢字表示可能な端末
\$\$\$CON,TSS,,ASC	英大文字・小文字表示可能な端末
\$\$\$CON,TSS,,JIS	英大文字のみ表示可能な端末

The screenshot shows a terminal window titled "Untitled". The session starts with "CONNECT" (labeled 'a'). It then displays "**** COMPUTATION CENTER OSAKA UNIVERSITY ****" (labeled 'b'). A menu for selecting a system class follows, listing options 1 through 6, each associated with ACOS & SX and either 1200, 2400, or 9600 BPS (labeled 'c'). After entering class 1, the user types "GO" (labeled 'd'). The system responds with "\$ N1020 09:50:42 NOT ACCEPT - NO CON" and "\$\$\$CON,TSS,,KNJ" (labeled 'e'). Subsequent lines show the host as "HANDAI TSS(MUX2 R1.1) ON 01/16/90 AT 9:51:11 CHANNEL 5045 LU=R1A480QN", user ID as "USER ID - [REDACTED]" (labeled 'f'), password as "PASSWORD--[REDACTED]TXQGBMMEPVR" (labeled 'g'), and a message about system resources: "SHIHARAI-CODE ?A" (labeled 'h'), "360 YEN RESOURCES USED < AVAILABLE ... 17640 YEN > ", and "SYSTEM ?".

Fig. 4

うに、すべて大文字で入力する。この例は、漢字表示可能な端末を用いた場合の入力である。端末の種類によって入力が異なる(Table 3)。

10. 利用者番号の問い合わせに対して入力する(Fig.4 の f)。
11. パスワードの問い合わせに対して入力する(Fig.4 の g)。
12. 支払いコードの問い合わせに対して入力する(Fig.4 の h)。但し、これは利用者番号の入力と一緒にに行なうこともできる。その場合、Fig.4 の f は 利用者番号;支払いコードとなる。
13. センターからの種々のメッセージが出た後、SYSTEM ? と表示され、TSS は利用者に必要なサービスシステムを選ぶように要求してくるので、具体的な作業に入ることができる(諸作業の手順については、本誌の関連ページを参照)。
14. SYSTEM ? の後、終了する時は BYE と入力する。通信中にファイルを閉じると、画面は消えるが続行状態のままとなるので、望ましくない。
15. 上記のプロセスをファイルに保存して使用すれば、2~3 の設定の操作は、以後、省略できる。

[B. ASL Talk を用いる場合]

ASL Talk は Hiroo Yamada 氏によって作成され、無料で公開・提供されているソフトである。ディスクアクセスリーダーとして用いる。漢字はシフトJIS しか扱えない。

1. アップルメニューから ASL Talk を選択すると、Fig.5の画面になる。図中の例のように設定を行なう(Ninja Term の項参照)。但し、FULL はローカルエコー無しの状態である。ローカルエコー有りの状態にするには、HALF に変える。

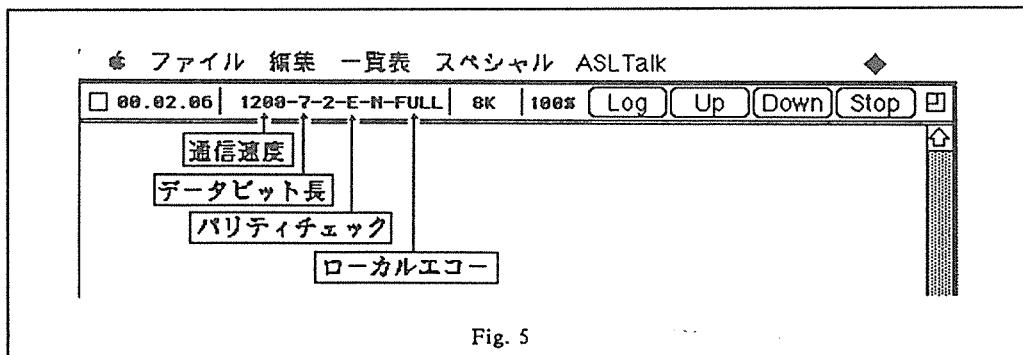


Fig. 5

2. との操作は Ninja Term の 4 以降と同じ。

[C. EG Talk を用いる場合]

EG Talk は株式会社エルゴソフトから販売されているソフトである。漢字が扱える。

1. EG Talk を起動すると、Fig.6 の画面になる。

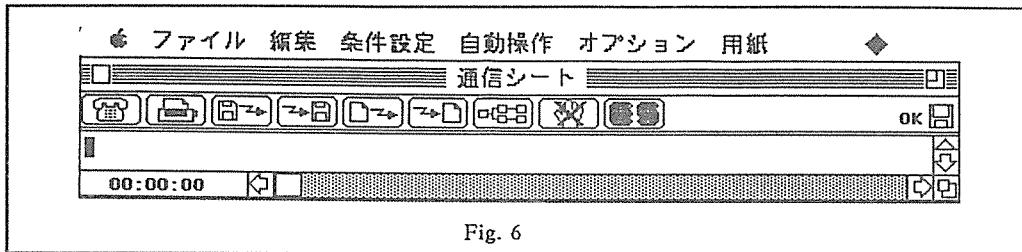


Fig. 6

- 条件設定メニューの「接続条件」を選択すると、Fig.7 の画面になるので、図中の a のように、電話番号の設定を行なう(電話番号の種類については、Table 2 参照)。

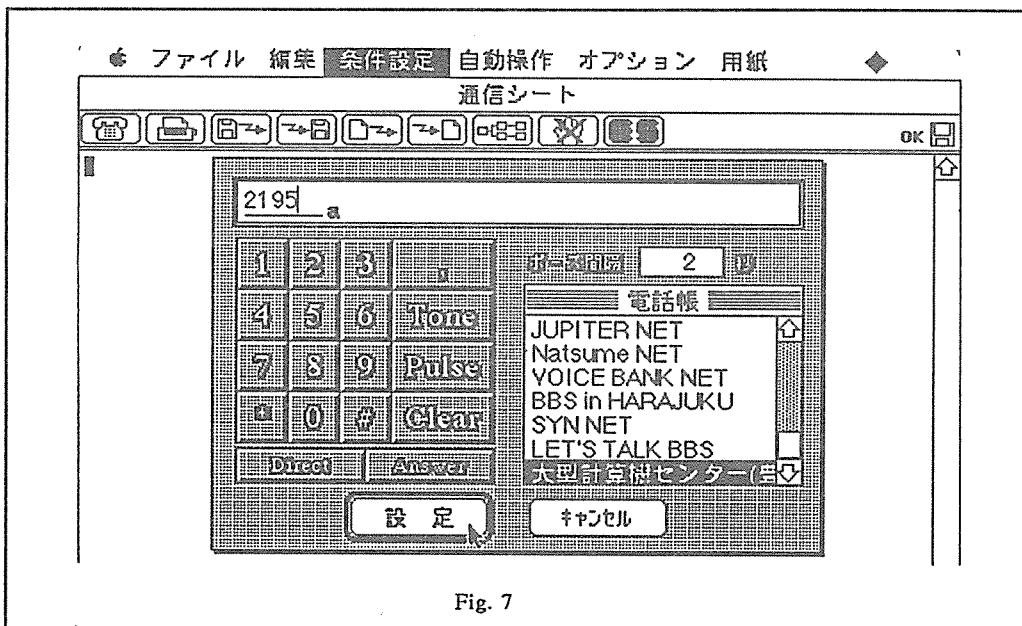


Fig. 7

- 条件設定メニューの「通信条件」を選択すると、Fig.8 の画面になるので、図のように、設定を行なう。
- 条件設定メニューの「ターミナル」を選択すると、Fig.9 の画面になるので、図のように、ローカルエコーをクリックする。これをしないと、センターからの応答メッセージが表示されないのはNinja TermやASL Talkと同様である。
- 画面左上の電話マークをクリックすると、Fig.10 の画面になり、a の部分の表示が「モデム設定中です」→「ダイヤル中です」→「接続に成功しました」と変化する。
- 接続が完了し、「接続プロセス」の表示が消えるので、リターンキーを押す。
- 以後の操作は Ninja Term の 7 以降を参照。

- 8.1～4のプロセスをファイルに保存して使用すれば、以後は、5の操作から開始できる。
 9.通信を終了する時は、電話マークをクリックする。

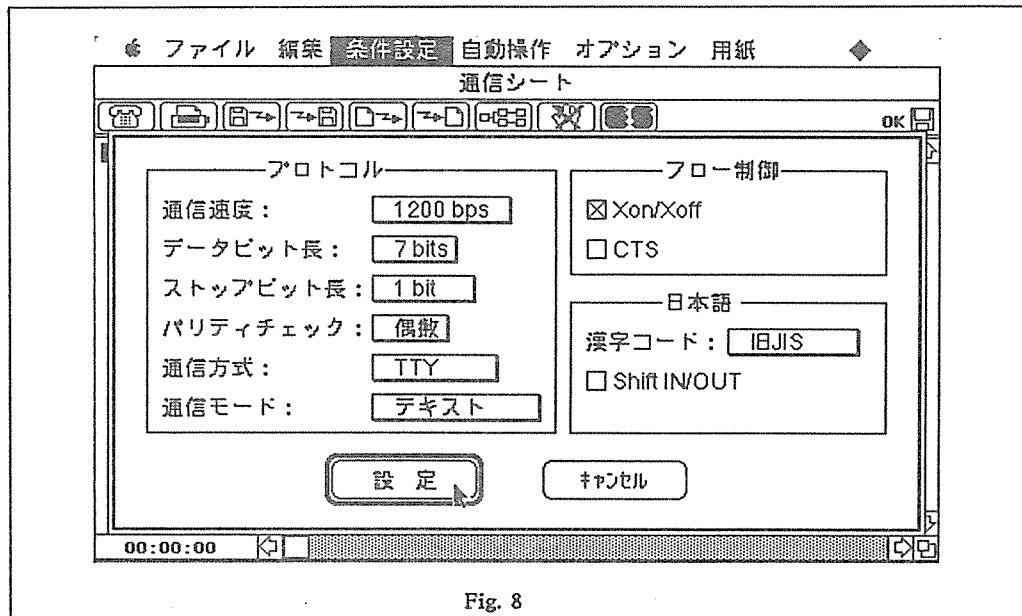


Fig. 8

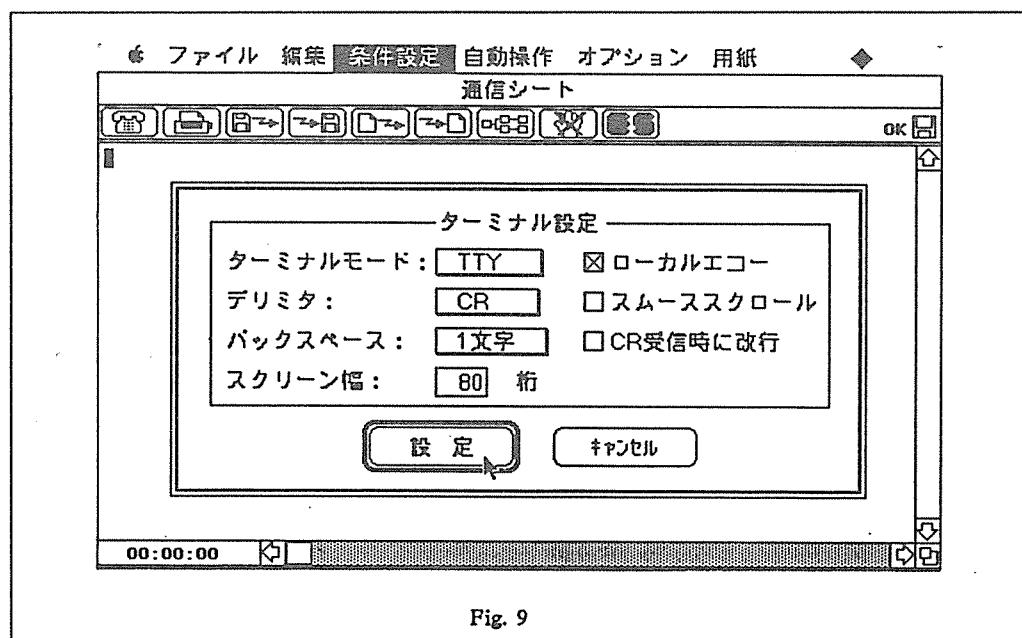


Fig. 9

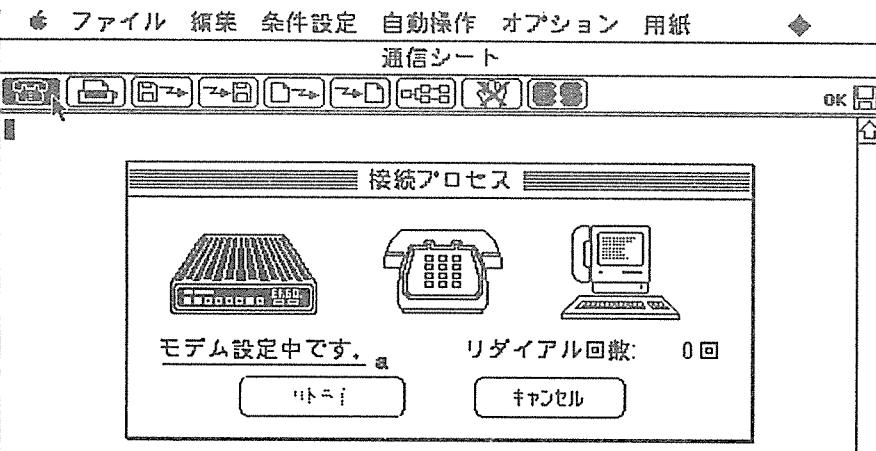


Fig. 10

4. おわりに

このように、手続きを書き連ねてゆくと、極めて簡単にことが運んだように見えるが、実際は、あちこちでひっかかっていたのである。筆者ひとりでは一つのひっかかりから抜け出るのに時間がかかるって、途中で投げ出していたかもしれないが、専門家の支援のおかげで最終点に到達することができた。

以前、Macの使用者が少ない頃、Macをセンターの端末として用いた実例にうまく出会うことが出来なかつた。また、専門家に尋ねても、「出来るはずですが、Macで実際にやったことがないで——」という返事がもらえるだけであった。それではと、端末局設置に関する説明書を読んでみても、具体的にどうすればよいのか、筆者のような素人にはもう一つピンとこなかった。実例があれば、何はともあれ真似てみて、とっかかりが揃めるのにと思っていた。

現在、Macの使用者も増加した。Macを使って端末局を設置したいと思いつつ、まだ果たしていない人達も増えているかもしれない。そのような人達が、この具体例をみて、これなら簡単にやれそうだと、行動を起こす気になって下さったらと、そんな願いをもって本文をしたためた。これだけのことをすれば、とにかく接続できますよという例を書いたにすぎない。したがって、本文には、センターとの接続に必要な最小限のことしか書かれていません。一般的なこと発展的なことは、各自の必要に応じ、関連資料にあたってマスターしていただきたいと思う。